

念ということができる。こうした集合的効力感が高い地域では、地域の犯罪抑止力が高いため犯罪が少なくなることや、子供の育成につながるなどの議論がなされるなど (Sampson et al. 1997)、様々な社会問題への処方箋の一つとして位置づけられてきたのである。そのこともあり、米国で大きな影響力をもつ議論とされ、どうすれば地域での集合的効力感を促進できるのかどうかについての議論が蓄積され、その規定構造についても検討が重ねられてきた。ところが、この集合的効力感やその規定構造についての検討は、日本ではほとんど行われてはこなかったのである。しかしながら、集合的効力感の検討は、地域での犯罪の抑止力や子どもの教育や生育、人々の健康格差など、さまざまな問題と関連していると考えられることができるため、多くの社会問題が表出している日本においても、検討する必要性は大きいといえることができるだろう。

そして、日本においてそうした検討を行う必要性が高い地域としては、大阪府が挙げられよう。なぜなら、2010年における人口千人当たりの刑法犯認知件数をみると、18.51と全都道府県の中で一番多く、社会問題が表出している可能性があると考えられるからである (総務省統計局 2013a) <sup>1)</sup>。そしてその中でも、大阪市が最も多い傾向にあるため <sup>2)</sup>、そのことから、大阪市において集合的効力感に関する検討を行うことは、社会問題に対する処方箋を考えていくうえでも大きな意義があると考えられるのである。

そこで本稿では、その第一歩として、「大阪市民の社会生活と健康に関する調査」のデータを用いて、大阪市における地域の集合的効力感について、その規定構造の検討を行うことを目的とする。そこで次節では、集合的効力感の規定構造に関する仮説を提示していく。

## 2. 仮説

では、どのような要因が、地域の集合的効力感を促進する、もしくは失わせるのであろうか。こうした集合的効力感の規定構造については、これまで特に米国で、居住地特性の効果に注目した検討が行われてきた (Sampson et al. 1997)。そこで、本稿でも居住地特性に注目しながら、集合的有効感に影響を与える要因について、三つの仮説を提示する。

居住地特性に注目した仮説として第一に提示したいのは、都市度假説である。これまで社会学の古典である、F. Tönnies (1887=1957) や E. Durkheim (1893=1989) によって、都市がコミュニティを衰退させるとの議論がなされてきた <sup>3)</sup>。そしてそうした議論は、初期のシカゴ学派の L. Wirth らによっても引き継がれ、都市が「人間的結合の伝統的絆」(Wirth 1938=2011: 113) の弱体化を引き起こすこと、すなわち社会解体を引き起こすという議論として展開されていったのである。これらの議論はその後、「都会人は互いにつながりのないばらばらな個人の集合体である」(Wellman 1979=2006: 164) ことを主張するコミュニティ喪失論としてまとめられることとなる。したがって、これらの議論から考えると、より都市的な居住地ほど、コミュニティの基盤が弱まること、そしてそのことにより、集合的効力感も弱まると考えることができるだろう。したがって本稿では、この仮説を都市度假説と呼び、実際に検討していくこととする。

また、第二に提示するのは、高齢化仮説である。これまで、平成 23 年社会生活基本調査により、特に高齢者に対するボランティアは高齢期に増加することが指摘されており、高齢者の間で助け合いがなされる傾向が明らかとなっている (総務省統計局 2013b)。また、地域のまちづくりに関するボランティアについても、年

年齢が高くなるにつれて参加が増加する傾向にあることも指摘されているのである（総務省統計局 2013b）。したがってこのことから考えると、高齢化が進んでいる地域ほど、お互いに助け合ったり、まちづくりに参加したりすることをおして、地域の集合的効力感が高まると考えることができるだろう。したがって、本稿ではこの仮説を高齢化仮説と呼び、検討を行っていくこととする。

さらに、第三に提示するのは、居住の安定性仮説である。これまで、居住の安定性が地域の集合的有効感に影響を与えることが指摘されている（Sampson et al. 1999）。なぜなら、転居が少なく定住者の多い地域ほど、その地域への定住志向が強く、そのために隣人付き合いや地域への活動に参加しやすくなるからである。そのことから、居住の安定性が強い地域ほど集合的効力感が強くなる傾向があると考えられるだろう。したがって、本章ではこれを居住の安定性仮説とよび、検討を行っていく。

本章では、大阪市における集合的効力感の規定構造について、これら三つの居住地特性に関する仮説を検討する。ただし、その際に注意しなければならないのは、学歴や職業などの個人属性も、集合的効力感に影響を与えている可能性があるということである。そこで、それらの

影響を考慮したうえで検討する必要があるため、それらを統計的にコントロールしながら検討を行っていくこととする。

### 3. データ・変数・モデル

#### 3-1 データ

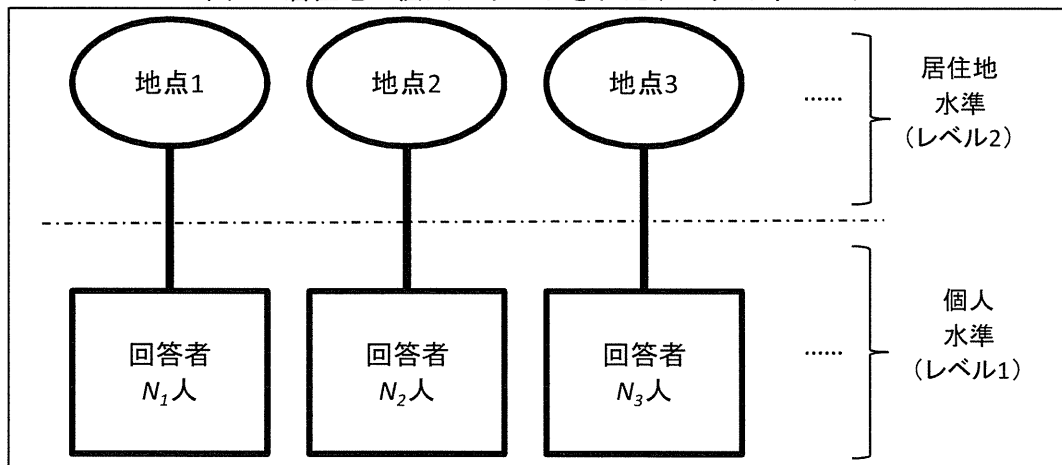
本章では、大阪市民の社会生活と健康に関する調査のデータセットを用いる。そして本章では、特に都市度、高齢化、居住の安定性といった居住地特性の効果を中心に検討することが目的であった。したがって本章では、本調査で層化二段無作為抽出法が採用されている点に注目したい。本調査では、まずは100地点が抽出され、その後それぞれの調査地点ごとに対象者（個人）が抽出されているのである。そこで今回は、個人を単位とした個人レベルと、居住地を単位とした居住地レベルの二つの水準からなるデータを作成した。こうしたデータはすなわち、各居住地に個人がネストされた入れ子状のデータということができる（図1）。

#### 3-2 変数

次に、用いる変数について説明する。まずは、従属変数について説明する。

今回従属変数として用いるのは、問6「現在

図1 居住地に個人がネストされたデータのイメージ



お住まいの地域（小学校区）について、以下のことがらほどの程度あてはまりますか」という化二段無作為抽出法が採用されている点に注目したい。本調査では、まずは 100 地点が抽出され、その後それぞれの調査地点ごとに対象者（個人）が抽出されているのである。そこで今回は、個人を単位とした個人レベルと、居住地を単位とした居住地レベルの二つの水準からなるデータを作成した。こうしたデータはすなわち、各居住地に個人がネストされた入れ子状のデータということができる（図 1）。

### 3-2 変数

次に、用いる変数について説明する。まずは、従属変数について説明する。

今回従属変数として用いるのは、問 6「現在お住まいの地域（小学校区）について、以下のことがらほどの程度あてはまりますか」という質問における、「(ケ) 日常的に住民同士が助け合っている」という項目である。この質問は、基本的には「1. あてはまる」「2. ある程度あてはまる」「3. あまりあてはまらない」「4. あてはまらない」という 4 件法で回答することになっている。ちなみに、その回答の分布は表 1 のとおりとなっている。これまでの集合的効力感の研究において、指標として地域住民のお互いの助け合いの頻度なども用いられていることから（Sampson et al. 1999）、この質問の回答を集合的効力感の指標として考えることができるだろう。そこで今回は従属変数として、こ

質問における、「(ケ) 日常的に住民同士が助け合っている」という項目である。この質問は、この質問の回答の値を反転し、値が大きくなるほど集合的効力感が高くなるような集合的効力感スコアを作成した。

次に、独立変数について、個人レベルの変数から説明する。

個人レベルの独立変数としては、個人の年齢、性別、学歴、職業、婚姻状態、居住年数を用いることとする。年齢は回答者の実年齢を用い、性別は女性ダミーを作成した。学歴は、教育年数を用い、職業は、専門・管理ダミー、事務・販売ダミー、ブルーカラーダミー、無職ダミー、を作成している。また、婚姻状態としては有配偶ダミーを用い、そして居住年数も個人属性に関する変数として用いる。これら個人レベルの変数は、基本的にコントロール変数として取り扱う。

また、居住地レベルの独立変数としては、居住地の都市度、高齢化、居住の安定性を表す変数を用いる。

まず、都市度を表すものとしては、居住地の人口密度を用いる。今回の調査では、地点の抽出は町丁目・字を単位としてなされていることから、抽出地点（町丁目・字）の人口密度を求めた。具体的には、総務省統計局（2013）から、平成 22 年国勢調査の小地域統計から各小地域の人口総数と面積のデータを用い、調査対象地点（町丁目・字）の 1km<sup>2</sup>あたりの人口密度を計算した。

表 1 問 6 (ケ) の回答の度数分布

	N	%
あてはまる	262	10.8
ある程度あてはまる	952	39.4
あまりあてはまらない	769	31.8
あてはまらない	433	17.9

そして、高齢化を表すものとしては、居住地の高齢者（65歳以上）人口比率を用いる。これについても同じく総務省統計局（2013）から平成22年国勢調査の小地域統計を用い、その小地域ごとの人口総数と65歳以上の人口のデータから、各調査対象地点（町丁目・字）の高齢者人口比率を計算した。なお、分析結果の値を読みやすくするため、100を掛けた値を用いている。

さらに、居住の安定性を表すものとしては、持ち家比率を用いる。これまでの研究においても、居住の安定性を表す指標の一つとして持ち家比率が用いられているのである（Sampson et al. 1999）。したがって、本稿においても、総務省統計局（2013）から平成22年国勢調査の小地域統計を用い、各小地域の世帯数と持ち家数のデータを用いて、各調査地点（町丁目・字）の持ち家比率の値を計算した。なお、この変数についても、分析結果の値を読みやすくするため、100を掛けた値を用いている。

これらの変数の記述統計は、以下の表1のとおりである。なお、今回の分析では個人レベル

の独立変数についても解釈できるようにグループ平均で中心化を行い、個人レベル（レベル1）の変数を投入する際にはグループごとの平均値を居住地レベル（レベル2）にも投入していくこととする。

### 3-3 モデル

今回の分析の焦点は、都市度、高齢化、居住の安定性といった、居住地特性を表す変数の効果である。そして、分析データとしては、個人レベルと、居住地レベルの二つの水準からなるデータを作成している。そこで本稿ではこのようなデータ特性を活かし、居住地特性の効果をより適切にあぶりだすために、マルチレベルモデルの一つである階層線形モデルによる分析を行っていくこととする。

ちなみに、本章では集合的効力感に関する居住地間の違いを検討することを目的としているため、切片のみにランダム効果を仮定したモデルを用いる。推定方法は、制限なし最尤法を用いた。

表2 用いる変数の記述統計

	N	平均値	標準偏差	最小値	最大値
<b>個人レベル</b>					
集合的効力感スコア	2416	2.43	0.91	1.00	4.00
年齢	2416	44.88	11.51	25.00	64.00
女性ダミー	2416	0.55	0.50	0.00	1.00
教育年数	2416	13.38	2.00	9.00	16.00
専門・管理ダミー	2416	0.25	0.43	0.00	1.00
事務・販売ダミー	2416	0.25	0.44	0.00	1.00
ブルーカラーダミー	2416	0.27	0.44	0.00	1.00
無職ダミー	2416	0.23	0.42	0.00	1.00
有配偶ダミー	2416	0.62	0.49	0.00	1.00
居住年数	2416	19.35	15.72	0.00	65.00
<b>居住地レベル</b>					
人口密度	100	3.83	0.50	2.78	5.38
高齢者人口比率	100	22.16	7.39	3.83	41.41
持ち家比率	100	42.83	18.78	0.17	81.72

#### 4. マルチレベル分析

それでは、実際にマルチレベル分析の結果を見ていく。マルチレベル分析の結果は、以下の表2のとおりである。モデル1は独立変数を投入しないヌル・モデル、モデル2は個人レベルの独立変数を投入したモデル、さらにモデル3はそれに加えて、居住地レベルの変数を投入したモデルである。

まず、モデル1のヌル・モデルを確認すると、独立変数を何も投入しない状態において、Random EffectのResidual Varianceが1%水準で有意であることが確認できる。これは従属変数が居住地間で有意に異なることを表すものであるため、大阪市において、各居住地間の「助け合い」の程度の違いは1%水準で有意に存在するということができるだろう。また、級内相関係数 (Intraclass Correlation) を確認すると0.082であり、級内相関係数の観点からも十分な値であること、すなわち、大阪市における居住地間の「助け合い」の程度には差があるといえる。したがって、マルチレベルモデルを用いる意義、そして、大阪市内におけるそうした居住地間の差異を説明していく必要があるといえる。

そこで次に、モデル2を確認していくことにしよう。モデル2は、全ての個人レベルの変数を投入したモデルである<sup>4)</sup>。このモデル2をみると、まずは年齢が1%水準で有意なプラスの効果をもつことがわかるだろう。したがって大阪市においては、年齢が高いほど、助け合いが盛んな傾向にあることがわかる。そして、女性ダミーも5%水準で有意なプラスの効果をもっている。そのことから、男性よりも女性のほうが、助け合いが盛んな傾向があるといえる。また、居住年数もプラスの効果をもっていることから、同じ居住地に長く住んでいる人ほど、助け合いが盛んな傾向にあることが確認できるだ

ろう。しかしながらここで重要なのは、個人レベルの変数を全て投入しても、Residual Varianceが1%水準で有意となっていた点である。このことは、これらの個人レベルの要因をコントロールしてもなお、大阪市における居住地間での「助け合い」の差異があることを示しているといえる。そのことから、こうした居住地間の差異を説明するために、居住地特性の効果を検討する必要がある。

そこで居住地間の「助け合い」の差異のうち、個人レベルの変数を統制しても残る差異について、どの居住地変数が効果を持つのかということについての検討を行った。全ての居住地レベルの変数を投入したモデル3を確認してみよう。モデル3を確認すると、まずは都市度を表す人口密度は効果をもたないことがわかる。したがって大阪市において、人口密度が高いかどうか、すなわち都市度が高いかどうかは地域の助け合いに影響をもたらさないことがわかった。このことから、都市度假説は棄却されるということができるだろう。

そして、高齢化を表す高齢者人口比率は1%水準で有意なプラスの効果を確認された。したがって、高齢者人口比率が高いほど、その地域の助け合いが盛んな傾向にあることがわかった。このことは、高齢化仮説を支持しているということができるだろう。

また、居住の安定性を表す持ち家比率の効果を確認してみると、5%水準で有意なプラスの効果を確認できる。そのことから、持ち家比率が高い居住地ほど、人々の助け合いが多い傾向にあることが明らかになったといえる。したがって、居住の安定性仮説も支持されたといえるだろう。

ちなみに適合度をみると、モデル1からモデル3まで-2Log Likelihoodの値が低下していることから、モデル1からモデル3にかけて、モデルが改善されていっていることがわかる。

表3 集合的効力感スコアを従属変数としたマルチレベル分析の結果

	モデル1		モデル2		モデル3	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
<i>Fixed Effect</i>						
切片	2.417 **	0.032	-0.256	1.165	0.259	1.205
個人レベル						
年齢			0.007 **	0.002	0.007 **	0.002
性別						
女性			0.090 *	0.038	0.090 *	0.038
男性(ref.)			—	—	—	—
教育年数			0.004	0.010	0.004	0.010
職業						
専門・管理(ref.)			—	—	—	—
事務・販売			-0.021	0.052	-0.021	0.052
ブルーカラー			-0.046	0.053	-0.046	0.053
無職・学生			-0.054	0.055	-0.054	0.055
配偶者の有無						
有			0.051	0.039	0.051	0.039
無(ref.)			—	—	—	—
居住年数			0.007 **	0.001	0.007 **	0.001
居住地レベル						
人口密度					-0.011	0.066
高齢者人口比率					0.013 **	0.005
持ち家比率					0.004 *	0.002
<i>Random Effect</i>						
Residual Variance	0.068 **	0.014	0.041 **	0.010	0.032 **	0.009
-2Log Likelihood	6292.21		6178.80		6166.20	
N	2416		2416		2416	

\*\*p<.01, \*p<.05

## 5. 議論

本稿では、集合的効力感の一側面を表すと考えられる「助け合い」の盛んな地域の条件についての検討を行うことを目的としていた。そして、特に居住地特性に注目しながら、都市度仮説、高齢化仮説、居住の安定性仮説といった三つの仮説を提示し、学歴や職業といった個人属性の効果も考慮しながら、マルチレベル分析による検討を行った。

マルチレベル分析の結果、(1)そもそも大阪市

においては居住地間の「助け合い」、すなわち集合的効力感の差異があり、マルチレベル分析を用いた分析の必要性があること、(2)学歴や職業などの個人レベルの変数を統制しても、なおその差異が確認できること、(3)居住地特性として、高齢者比率と持ち家比率が有意なプラスの効果をもっていること、が明らかとなった。

そのことから、都市度仮説は棄却され、高齢化仮説と居住の安定性仮説は支持されたといえるだろう。

都市度仮説については、これまでの北米の都

市社会学研究において、必ずしも都市が人々の紐帯やコミュニティを喪失させるわけではないとの指摘もなされている（Whyte [1943]1993=2000; Gans [1962]1982=2006; Fischer 1975=1983, 1982=2002; Wellman 1979=2006; White and Guest 2003）。また、日本においても同様の証拠が提出されているのである（松本 2005a, 2005b; 石田 2007; 赤枝 2011）。近年では、むしろこうした議論のほうが主流となっており、今回の結果は、近年の日米での研究成果とは整合的な結果といえるだろう。すなわち、大阪市においても、都市度の高さは必ずしも助け合いを壊すわけではないのである。

また、それに対して本研究では、高齢化仮説は支持された。先に述べたとおり、全国的な傾向として、高齢者に対するボランティアは高齢者が多いこと、そして地域のまちづくりなどに関するボランティアについても同様であることが指摘されている（総務省統計局 2013b）。また、高齢者ほど地域から孤立しにくいとの議論もあり（内閣府 2007）、地域の助け合いは高齢者を中心に担われているともいえる。そして、そうした相乗効果によって、高齢者が多い居住地ほど、助け合いも盛んになるといえるのではないだろうか。そして、高齢者の多い居住地ほど、実際に助け合いが増え、地域内での助け合いの意識や実感が高くなると考えられるだろう。今回の分析結果は、そうした傾向が大阪市を対象としても確認されたと解釈することができるだろう。

そして、本研究では、居住の安定性仮説も支持された。これまでも、居住の安定性が高い居住地ほど、地域の友人関係や地域の愛着が豊富であり（Sampson 1988）、また、互酬的交換も多いとされている（Sampson et al. 1999）。本研究では、こうした海外の研究と同様の傾向が、日本の大阪市でも確認されたと考えることがで

きるだろう。持ち家が多い地域では、周囲の人々が定住する傾向が強く、そのために地域活動や地域関係を大事にすることにより、お互いの助け合いが盛んになっていくと考えられる。このことから、人々が定住したいと思える街づくりを目指すことが、集合的効力感を高めていくことの条件といえるだろう。

これら、高齢化や居住の安定性など、居住地特性が集合的効力感に影響をもたらしている事実は、集合的効力感の高い地域の条件として、本人だけではなく、居住地、つまりは回答者の周囲の状況も考慮することの必要性を示すものといえる。このような、マクロな居住地特性へ注目した分析については、本章でも用いたように、マルチレベル分析を中心とした統計技法の発達と、そして小地域統計やメッシュ統計をはじめとした地域データの整備などによって、検討を行う下地が整ってきている。そこで今後も、集合的効力感、そして地域・コミュニティの社会関係資本の規定構造に関する検討が進められ、さらなる研究が蓄積されることが望ましいといえる。その際には、地理学や、都市社会学での社会地区分析で用いられている地理情報システム（GIS）の機能も使いながら検討を進めていくことも考えられるだろう（倉沢・浅川編 2004; 浅川 2008）。

そしてさらに、今後は、こうした集合的効力感や地域・コミュニティの社会関係資本が教育、犯罪、健康など、様々な社会現象に対してどのような影響をもたらすのかということについても検討していく必要がある。そうした試みによって、実際の社会問題への解決へもつながるほか、理論的にも大きな進展が期待される。また、本研究で検討した集合的効力感とは、地域内での社会関係資本を基礎として生み出されるものと考えられるが、今後は、地域を越えた社会関係資本の効果などについて検討する必要もあるだろう。それらが、今後の課題である。

## 注

- 1) ただし、刑法犯認知件数については、警察の取り締まりの強さや、住民がどれだけ届け出るかにも依存するため、解釈には注意が必要である。
- 2) 総務省統計局（2012）による。
- 3) こうした主張については、Tönnies の「農村生活の賛美はすべて、そこでは人々の間のゲマインシャフトがより強く、より生き生きしている、ということをつねに示している」（Tönnies 1887=1957（上）：37）ということばにも表れているといえる。
- 4) 先述したように、個人レベルの変数については、居住地ごとの平均値も計算し、居住地レベルに投入している。

## 文献

- 赤枝尚樹, 2011, 「都市は人間関係をどのように変えるのか——コミュニティ喪失論・存続論・変容論の対比から」『社会学評論』62(3): 189-206.
- 浅川達人, 2008, 「社会地区分析再考——KS法クラスター分析による2大都市圏の構造比較」『社会学評論』59(2): 299-315.
- Coleman, J.S., 1988, "Social Capital in the Creation of Human Capital," *American Journal of Sociology*, 94: S95-120. (=2006, 金光淳訳「人的資本の形成における社会関係資本」野沢慎司編・監訳『リーディングスネットワーク論——家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房, 205-38.)
- Durkheim, E., 1893, *De la division du travail social*, Paris: Alcan. (=1989, 井伊玄太郎訳『社会分業論』講談社.)
- Fischer, C.S., 1975b, "Toward a Subcultural Theory of Urbanism," *American Journal of Sociology*, 80(6): 1319-41. (=1983, 奥

田道大・広田康生訳「アーバンイズムの下位文化理論に向けて」『都市の理論のために——現代都市社会学の再検討』多賀出版, 50-94.)

- , 1982, *To Dwell Among Friends: Personal Networks in Town and City*, Chicago: The University of Chicago Press. (=2002, 松本康・前田尚子訳『友人のあいだで暮らす——北カリフォルニアのパーソナル・ネットワーク』未来社.)
- Fukuyama, F., 1995, *Trust: The Social Virtues and the Creation of Prosperity*, New York: The Free Press.
- Gans, H.J., [1962]1982, *The Urban Villagers: Group and Class in the Life of Italian-Americans*, New York: Free Press. (=2006, 松本康訳『都市の村人たち——イタリア系アメリカ人の階級文化と都市再開発』ハーベスト社.)
- 石田光規, 2007, 「誰にも頼れない人たち——JGSS2003 から見る孤立者の背景」『季刊家計経済研究』73: 71-9.
- Kawachi, I., S.V. Subramanian and D. Kim, eds., 2007, *Social Capital and Health*, New York: Springer Science + Business Media. (=2008, 藤澤由和・高尾総司・濱野強訳, 『ソーシャル・キャピタルと健康』日本評論社.)
- 倉沢進・浅川達人編, 2004, 『新編東京圏の社会地図 1975-90』東京大学出版会.
- Lin, N., 2001, *Social Capital: Theory of Social Structure and Action*, Cambridge: Cambridge University Press. (=2006, 筒井淳也・石田光規・櫻井政成・三輪哲・土岐智賀子訳, 『ソーシャル・キャピタル——社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房.)
- 松本康, 2005a, 「居住地の都市度と親族関係——



- 下位文化仮説, 修正下位文化仮説および  
少子化仮説の検討』『家族社会学研究』  
16(2): 61-9.
- , 2005b, 「都市度と友人関係——大  
都市における社会的ネットワークの構造化」  
『社会学評論』56(1): 147-64.
- 内閣府, 2007, 『平成 19 年版 国民生活白書—  
つながりが築く豊かな国民生活』.
- Putnam, R.D., 2000, *Bowling Alone: The  
Collapse and Revival to American  
Community*, New York: Simon &  
Schuster. (=2006, 柴内康文訳『孤独なボ  
ウリング——米国コミュニティの崩壊と  
再生』柏書房.)
- Sampson, R.J., 1988, “Local Friendship Ties  
and Community Attachment in Mass  
Society: A Multilevel Systemic Model,”  
*American Sociological Review*, 53(5):  
766-79.
- Sampson, R.J., S. Raudenbush, and F. Earls,  
1997, “Neighborhoods and Violent  
Crime: A Multilevel Study of Collective  
Efficacy,” *Science*, 277: 918-24.
- Sampson, R.J., J.D. Morenoff and F. Earls,  
1999, “Beyond Social Capital: Spatial  
Dynamics of Collective Efficacy for  
Children,” *American Sociological Review*,  
64(5): 633-60.
- 総務省統計局, 2012, 『統計でみる市区町村の  
すがた 2012』.
- 総務省統計局, 2013a, 『統計でみる都道府県の  
すがた 2013』.
- 総務省統計局, 2013b, 「政府統計の総合窓口」,  
(2013 年 4 月 9 日取得,  
<http://www.e-stat.go.jp/>).
- Tönnies, F., 1887, *Gemeinschaft und  
Gesellschaft: Grundbegriffe der reinen  
Soziologie*, Leipzig: Fues's Verlag. (= 1957, 杉之原寿一訳『ゲマインシャフトと  
ゲゼルシャフト——純粹社会学の基本概念』岩波書店.)
- Wellman, B., 1979, “The Community  
Question: The Intimate Networks of  
East Yorkers,” *American Journal of  
Sociology*, 84(5): 1201-31. (=2006, 野沢  
慎司・立山徳子訳「コミュニティ問題——  
イースト・ヨーク住民の親密なネットワー  
ク」野沢慎司編・監訳『リーディングス ネット  
ワーク論——家族・コミュニティ・社  
会関係資本』勁草書房, 159-204.)
- White, K.J.C. and A.M. Guest, 2003,  
“Community Lost or Transformed?:  
Urbanization and Social Ties,” *City &  
Community*, 2(3): 239-59.
- Whyte, W.F., [1943]1993, *Street Corner  
Society: The Social Structure of an  
Italian Slum*, Chicago: University of  
Chicago Press. (=2000, 奥田道大・有里  
典三訳『ストリート・コーナー・ソサエテ  
ィ』有斐閣.)
- Wirth, L., 1938, “Urbanism as a Way of Life,”  
*American Journal of Sociology*, 44(1):3-24.  
(=2011, 松本康訳「生活様式としてのア  
ーバニズム」松本康(編)『都市社会学セ  
レクション第 1 巻 近代アーバニズム』誠  
信書房: 89-115.

### Ⅲ. 資 料

## 資料1 調査票

### 大阪市立大学

### 「大阪市民の社会生活と健康に関する調査」

## 社会生活についての質問票

ご記入日：平成 23 年 月 日

この調査にご協力をお願いするのは、封筒のあて名の方です。

ご自分のお考えを、ご自身でご記入くださいますよう、お願いいたします。

- 黒または青色の鉛筆・ペン・ボールペンでご記入ください。
- 問1から順番にお答えください。一部の方にだけ答えていただく質問もありますが、その場合は矢印(→)で示してありますので、矢印にしたがってお答えください。
- あてはまる回答項目の番号(1、2……)を○でかこんでください。「その他( )」にあてはまる場合は、ご面倒でも○のほかはその内容を( )内にご記入ください。

ご回答いただいた質問票は、

「健康についての質問票」「ご協力者 記入用紙」と一緒に、

同封の返信用封筒で、10月3日(月)までにご投函ください。

#### A. はじめに、あなたご自身のことについておうかがいします。

**問1** あなたの性別とお生まれの年月をお教えてください。

(1) 性別

1. 男性 2. 女性

(2) お生まれの年月

1. 西暦 2. 昭和 ()年 ()月

**B. あなたのお住まいや地域についておうかがいします。**

**問2** あなた現在の住まいは、次のどれにあたりますか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。 **QS2**

- |                         |                               |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1. 持家(一戸建て)             | 5. 公営賃貸アパート・住宅                |
| 2. 持家(分譲マンション)          | 6. 社宅・寮・官舎・公舎                 |
| 3. 借家・民間のアパート・マンション(賃貸) | 7. 下宿・間借り                     |
| 4. 公団賃貸アパート・住宅          | 8. その他(具体的に: <b>QS2.8FA</b> ) |

**問3** 現在住んでいる住居には、いつからお住まいですか。

西暦・昭和・平成 **QS3.2FA** 年 **QS3.3FA** 月から

**問4** あなたのお住まいにはいくつ部屋がありますか(台所・便所・浴室・玄関はのぞきます)。 **QS4FA**

 部屋

**問5** 現在住んでいる地域(小学校区ていどの範囲)には、いつからお住まいですか。

西暦・昭和・平成 **QS5.2FA** 年 **QS5.3FA** 月から

**問6** 現在お住まいの地域(小学校区)について、以下のことがらはどの程度あてはまりますか。

	あてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない
(ア) 子どもを育てるには良い場所である <b>QS6.1</b>	1	2	3	4	5
(イ) ガラが悪い <b>QS6.2</b>	1	2	3	4	5
(ウ) 他の地域より住み心地が良い <b>QS6.3</b>	1	2	3	4	5
(エ) 電車・バスなど公共交通機関が充実 <b>QS6.4</b>	1	2	3	4	5
(オ) 学校や教育施設の質が良い <b>QS6.5</b>	1	2	3	4	5
(カ) 図書館や美術館など文化施設が充実 <b>QS6.6</b>	1	2	3	4	5
(キ) 商業施設が充実している <b>QS6.7</b>	1	2	3	4	5
(ク) 外観(道路・建物)が整備されている <b>QS6.8</b>	1	2	3	4	5
(ケ) 日常的に住民同士が助け合っている <b>QS6.9</b>	1	2	3	4	5

**問7** 以下の用事で出かけるとき、どこへ行くことがもっとも多いですか。

	主に地域 (小学校 区)内	主に地域 (小学校区)外	地域内と外 の半々	行かない
(ア) 食料・日用品の買い物 <span>QS7.1</span>	1	2	3	4
(イ) 銀行・郵便局 <span>QS7.2</span>	1	2	3	4
(ウ) 病院・薬局 <span>QS7.3</span>	1	2	3	4
(エ) 散歩をする <span>QS7.4</span>	1	2	3	4
(オ) 友人・知人に会いに行く <span>QS7.5</span>	1	2	3	4
(カ) 外食をする <span>QS7.6</span>	1	2	3	4
(キ) 映画やコンサートなどに行く <span>QS7.7</span>	1	2	3	4

**問8** 過去数年のあいだに、(友人や親戚以外の)近所の方とは、どのくらいお付き合いがありましたか(あいさつは除く)。下表(ア)(イ)のそれぞれについて、あてはまるもの一つに○をつけてください。

(ア) 直接会う <span>QS8.1</span>	(イ) 電話やメール・手紙等で連絡をとる <span>QS8.2</span>
1. ほぼ毎日(週5~7回)	1. ほぼ毎日(週5~7回)
2. 週に3~4回	2. 週に3~4回
3. 週に1~2回	3. 週に1~2回
4. 月に1~2回	4. 月に1~2回
5. 年に数回	5. 年に数回
6. まったくなかった	6. まったくなかった

**問9** あなたは、地域の住民とご自分が似ていると感じますか。それとも違っていると感じますか。 QS9

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. 似ている         | 3. どちらかといえば違って |
| 2. どちらかといえば似ている | 4. 違って         |

**問10** 過去二年間にお住まいの地域内で、以下のことを経験したことがありますか。

	あった	なかった
あなたが盗難の被害(空き巣、自転車の盗難、引ったくりなど)にあった <span>QS10.1</span>	1	2
あなたが身体的暴力を受けたり、口頭で暴言を吐かれることがあった <span>QS10.2</span>	1	2



	ほとんどいる (半数以上)	何人かいる (半数未満)	いない
(ア) 同じ地域(小学校区ていど)内 <b>QS14.1</b>	1	2	3
(イ) 別の地域(小学校区ていど)だが、同じ区内 <b>QS14.2</b>	1	2	3

**問 15** あなたは過去数年のあいだ、どのぐらいの頻度で親しい友人と連絡をとっていますか。下表 (ア)(イ) それぞれについて、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

(ア) 直接会う <b>QS15.1</b>	(イ) 電話やメール・手紙等で連絡をとる <b>QS15.2</b>
1. ほぼ毎日(週5~7回)	1. ほぼ毎日(週5~7回)
2. 週に3~4回	2. 週に3~4回
3. 週に1~2回	3. 週に1~2回
4. 月に1~2回	4. 月に1~2回
5. 年に数回	5. 年に数回
6. まったくなかった	6. まったくなかった

**問 16** あなたは過去6か月のあいだに、以下のことで助けたり、助けてもらった(もらっている)ことはありますか。あてはまるものに○をつけてください。また、「ある」の場合、その相手はどなたですか。下の口のなかから記号を選び、お答えください(複数回答可)

- (ア) お金や食事、服などをあげた(もらった) **QS16.1** 1. ない 2. ある → 誰に( )
- (イ) 日常生活のなかでのちょっとした手助け **QS16.2** 1. ない 2. ある → 誰に( )
- (ウ) 精神的・感情的なサポート **QS16.3** 1. ない 2. ある → 誰に( )

a. 子どもや親	b. その他の親戚	c. 友人・同僚	d. 近所の人	e. その他	記述欄
<b>QS16.1.1</b>	<b>QS16.1.2</b>	<b>QS16.1.3</b>	<b>QS16.1.4</b>	<b>QS16.1.5</b>	<b>QS16.1.5FA</b>
<b>QS16.2.1</b>	<b>QS16.2.2</b>	<b>QS16.2.3</b>	<b>QS16.2.4</b>	<b>QS16.2.5</b>	<b>QS16.2.5FA</b>
<b>QS16.3.1</b>	<b>QS16.3.2</b>	<b>QS16.3.3</b>	<b>QS16.3.4</b>	<b>QS16.3.5</b>	<b>QS16.3.5FA</b>

**D. あなたの現在のご家族についておたずねします。**

**問 17** 現在、同居しているご家族は、あなたをふくめて何人いますか。学業や仕事、療養のために別居している方は除いてお答えください。 **QS17FA**

人

**問 18** あなたは結婚していますか。次のどれにあたりますか。 **QS18**

1. 未婚 2. 既婚(事実婚を含む) 3. 死別 4. 離別

**問 19** 現在、あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。すでに独立している方も含めてください。 QS19

1. いる                      2. いない → **問 20**へ



「いる」と答えた方におたずねします。

(19-1) お子さんは何人いますか。 合計( QS19.1FA )人

6歳以上のお子さんのいる方におたずねします。

(19-2) あなたは、ご自分のお子さんに、大切にされていると感じていますか。 QS19.2

1. 子ども全員から感じる              2. 一部の子どもからは感じる              3. まったく感じない

**問 20** 同じ世帯の方をのぞいて、下表(ア)(イ)に住んでいる親族(両親、子ども、きょうだい、祖父母、おじ・おば、いとこなど)は、どのぐらいいますか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

	ほとんどいる (半数以上)	何人かいる (半数未満)	全くいない
(ア) 同じ地域(小学校区ていど)内 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS20.1</span>	1	2	3
(イ) 別の地域(小学校区ていど)だが、同じ区内 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS20.2</span>	1	2	3

**問 21** あなたは現在、以下の方に大切にされていると感じますか。あてはまるものに○をつけてください。

	感じている	少し感じている	あまり感じない	感じない	いない
父親 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS21.1</span>	1	2	3	4	5
母親 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS21.2</span>	1	2	3	4	5
配偶者・恋人 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS21.3</span>	1	2	3	4	5

**問 22** あなたは以下の相談や頼みごとをするとしたら、どなたにしますか。次の(ア)～(オ)について、それぞれもっともよくあてはまるもの一つに○をつけてください。

	同居して いる家族	同居してい ない家族	その他 の親族	友人や 同僚	近所の 人
(ア) 仕事探しを手伝ってもらおう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS22.1</span>	1	2	3	4	5
(イ) 住居探しを手伝ってもらおう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS22.2</span>	1	2	3	4	5
(ウ) お金やモノなどの援助を受ける <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS22.3</span>	1	2	3	4	5
(エ) 日常生活の手助けをしてもらう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS22.4</span>	1	2	3	4	5
(オ) 精神面で支えてもらう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS22.5</span>	1	2	3	4	5



**問 23** あなたの父親、母親との現在の関係についておたずねします。下表の(ア)～(エ)について、あてはまるものに○をつけてください。

父親	母親
<p>(ア) 現在、この方と一緒に生活していますか。あてはまるものを<u>一つ</u>選んで○をつけてください。</p>	
<p>1. 別々に生活している⇒(イ)以下へ</p> <p>2. 一緒に生活している⇒(エ)へ</p> <p>3. 亡くなっている ⇒ <b>問 24</b> へ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.1.1</span></p>	<p>1. 別々に生活している⇒(イ)以下へ</p> <p>2. 一緒に生活している⇒(エ)へ</p> <p>3. 亡くなっている ⇒ <b>問 24</b> へ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.2.1</span></p>
<p>(イ) この方とは過去数年のあいだ、どのくらいの頻度で会っていますか。</p> <p>あてはまるものを<u>一つ</u>選んで○をつけてください。</p>	
<p>1. ほぼ毎日(週5～7回)</p> <p>2. 週に3～4回</p> <p>3. 週に1～2回</p> <p>4. 月に1～2回</p> <p>5. 年に数回</p> <p>6. まったく会わなかった <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.1.2</span></p>	<p>1. ほぼ毎日(週5～7回)</p> <p>2. 週に3～4回</p> <p>3. 週に1～2回</p> <p>4. 月に1～2回</p> <p>5. 年に数回</p> <p>6. まったく会わなかった <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.2.2</span></p>
<p>(ウ) この方とは、過去数年のあいだ、どのくらいの頻度で電話、手紙、Eメール等で連絡をとっていますか。</p> <p>あてはまるものを<u>一つ</u>選んで○をつけてください。</p>	
<p>1. ほぼ毎日(週5～7回)</p> <p>2. 週に3～4回</p> <p>3. 週に1～2回</p> <p>4. 月に1～2回</p> <p>5. 年に数回</p> <p>6. まったくなかった <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.1.3</span></p>	<p>1. ほぼ毎日(週5～7回)</p> <p>2. 週に3～4回</p> <p>3. 週に1～2回</p> <p>4. 月に1～2回</p> <p>5. 年に数回</p> <p>6. まったくなかった <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.2.3</span></p>
<p>(エ) 現在、この方との関係は、いかがですか。あてはまるものを<u>一つ</u>選んで○をつけてください。</p>	
<p>1. 良い</p> <p>2. どちらかといえば良い</p> <p>3. どちらかといえば悪い</p> <p>4. 悪い <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.1.4</span></p> <p>5. その他 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.1.4.5FA</span> )</p>	<p>1. 良い</p> <p>2. どちらかといえば良い</p> <p>3. どちらかといえば悪い</p> <p>4. 悪い <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.2.4</span></p> <p>5. その他 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">QS23.2.4.5FA</span> )</p>

**E. あなたの幼年期と青年期についておたずねします。**

**問 24** あなたが 15 歳だった頃(中学卒業時)、あなたのご両親はどのようなお仕事をされておりましたか。(15 歳より前に亡くなっていた、行方不明だった、失業していたなどの場合は、最後にしていたお仕事について、お答えください)。

(1) 働き方:もっとも近いものを一つ選んで○をつけてください。

	父親 <span style="border: 1px solid black;">QS24.1.1</span>	母親 <span style="border: 1px solid black;">QS24.1.2</span>
(ア) 経営者、役員(自営業主をのぞく)	1	1
(イ) 常用雇用の一般従業者	2	2
(ウ) 臨時雇用(パート・アルバイト・内職)	3	3
(エ) 派遣社員	4	4
(オ) 自営業主・自営業者	5	5
(カ) 家族従業者	6	6
(キ) 学生	7	7
(ク) 働いていなかった	8	8
(ケ) わからない	9	9

(2) お仕事の内容:もっとも近いものを一つ選んで○をつけてください。

	父親 <span style="border: 1px solid black;">QS24.2.1</span>	母親 <span style="border: 1px solid black;">QS24.2.2</span>
(ア) 専門職・技術職 (医師、弁護士、教師、看護師、デザイナーなど)	1	1
(イ) 管理職 (課長相当以上の管理職、議員、経営者など)	2	2
(ウ) 事務職 (一般事務、経理、内勤の営業など)	3	3
(エ) 販売職 (店主、店員、不動産売買、外交員など)	4	4
(オ) サービス職 (理・美容師、料理人、ウェイトレス、ヘルパーなど)	5	5
(カ) 生産現場職・技能職 (工場労働者、建設作業員、大工など)	6	6
(キ) 運輸・保安職 (運転手、船員、郵便配達、警察官、自衛官、警備員など)	7	7
(ク) わからない	8	8

**問 25** あなたが 15 歳だった頃(中学卒業時)、あなたのお宅の暮らしむきはどのようなものでしたか。以下からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。当時のふつうの暮らしむきとくらべてお答えください。

QS25

1. ゆとりがあった

3. 同じ(ふつう)

5. 苦しかった

2. ややゆとりがあった

4. やや苦しかった

6. わからない

**問 26** あなたは、子どものときから 18 歳になるまでのあいだ、以下の出来事を経験したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 大人から精神的・身体的にひどい扱いを受けた

QS26.1

4. 両親のどちらかが半年以上の失業を経験した

QS26.4

2. 借金や低収入などで家族がお金に困っていた

QS26.2

5. 両親が激しい口論をしていた

QS26.5

3. 両親のどちらかが亡くなった

QS26.3

6. 両親が離婚した(別居した)

QS26.6

**問 27** あなたは、子どものときから 18 歳になるまでのあいだ、両親に大切にされていると感じていましたか。あてはまるものに○をつけてください(死亡・離婚などで親との関わりがなかった場合は、5を選んでください)。

	とても感じていた	少し感じていた	あまり感じなかった	まったく感じなかった	関わりなし
父親 QS27.1	1	2	3	4	5
母親 QS27.2	1	2	3	4	5

**F. あなたの学校での教育についておうかがいします。**

**問 28** 次のうち、あなたが最後に通った(または現在通学中の)学校はどれですか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。配偶者やご両親についても、わかる範囲で同様にお答えください。

	あなた QS28.1	配偶者 QS28.2	父親 QS28.3	母親 QS28.4
1. 中学校 (尋常小学校(国民学校含む)、高等小学校)	1	1	1	1
2. 高等学校 (旧制中学・高等女学校、実商業学校、師範学校)	2	2	2	2
3. 専修学校(専門学校)	3	3	3	3
4. 短期大学・高等専門学校(5年制)	4	4	4	4
5. 大学・大学院 (旧制大学、高等師範学校など)	5	5	5	5
6. わからない	6	6	6	6
7. 配偶者はいない		7		

**問 29** あなたは、最後に通った学校を卒業しましたか。中退しましたか。それとも、現在在学中ですか。QS29

1. 卒業した

2. 中退した

3. 在学中

**問 30** あなたが 15 歳の頃(中学3年生か中学卒業の頃)のことをおたずねします。中学3年生当時の学校生活を思い出して、下表の(ア)～(オ)それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

	とても あてはま る	やや あてはま る	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
(ア) 親に良い成績をとることを期待されていた <span style="border: 1px solid black;">QS30.1</span>	1	2	3	4
(イ) 学校の勉強が好きだった <span style="border: 1px solid black;">QS30.2</span>	1	2	3	4
(ウ) 病気以外は遅刻や欠席はしなかった <span style="border: 1px solid black;">QS30.3</span>	1	2	3	4
(エ) 信頼できる先生・友人がいた <span style="border: 1px solid black;">QS30.4</span>	1	2	3	4
(オ) 適切な進路指導を受けた <span style="border: 1px solid black;">QS30.5</span>	1	2	3	4

### G. あなたのお仕事についておたずねします

**問 31** あなたは、ふだん何か収入になる仕事をしていますか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職も含まれます。 QS31

- |            |            |  |
|------------|------------|--|
| 1. 仕事をしている | 3. 家事をしている | 5. 病気・ケガ・障がいのため働いていない  |
| 2. 通学している  | 4. 求職中である  | 6. その他(具体的に <span style="border: 1px solid black;">QS31.6FA</span> ) |

### 現在、仕事をしていない方におたずねします。

(現在仕事をしている方は、11 ページの 問 34 へお進みください)

**問 32** どのような理由で現在仕事についていないのですか。あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

QS32

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| 1. 就職ができず(せず)、学校を出た(中退を含む) | 5. 自ら辞職した、あるいは自営活動をやめた  |
| 2. 契約期間(日雇いを含む)が終わった       | 6. 病気やケガなどの健康問題がある  |
| 3. 登録型派遣などで、次の契約を待っている     | 7. 仕事をする気がない  |
| 4. 解雇された、会社が倒産した           | 8. その他の理由( <span style="border: 1px solid black;">QS32.8FA</span> ) |

### 現在仕事をしておらず、かつ求職中の方におたずねします。

(求職していない方は、11 ページの 問 34 へお進みください)

**問 33**

(1) あなたの失業期間は、どれくらい続いていますか。 QS33.1

- |            |             |               |
|------------|-------------|---------------|
| 1. 1か月未満   | 3. 3～6か月未満  | 5. 12か月(1年)以上 |
| 2. 1～3か月未満 | 4. 6～12か月未満 |               |